

600時間養成課程に関する意見

日本介護福祉士養成施設協会

600 時間養成課程と通信教育(印刷教材による)

600 時間養成課程の学び方は通学と通信教育の二つの方法がある。通信課程は印刷教材による方法と放送・メディアによる方法がある。放送・メディアによる時間数は 6 ヶ月課程と同じ時間数と期間であるが、印刷教材による方法はその自宅学習を含め 600 時間の 3 倍に、つまり約 1800 時間で 1 年以上の履修期間となっている。

実務経験者に新たな 600 時間養成課程を課することは、1800 時間養成課程の到達目標との整合性において設けられたものである。しかし、介護職の仕事をしながら介護福祉士の資格取得希望者に負担となる意見があり、その実施方法に工夫が必要である。日本介護福祉士養成施設協会（介養協）は印刷教材による通信教育が適切であると考え、通信教育に必要な教育内容と方法の開発を行った。介養協が行う 600 時間養成課程の教育は 1800 時間養成課程の内容を集約して行うものである。

600 時間養成課程の意義

新カリキュラムは、従来のカリキュラムが部分的に改編されたものではなく、まったく新しいパラダイムに基づく内容となっている。則ち、介護福祉学を「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」の 3 領域からなるものとし、「人間と社会」と「こころとからだのしくみ」は、「介護」の知識をバックアップする領域としている。さらに、「介護」の内容は「ICF（International Classification of Functioning Disability and Health：国際生活機能分類）に基づく介護過程の展開」を柱とし、その他の知識・学問はすべて介護過程の展開に収斂するよう意図されている。つまり、新カリキュラムの核心は、ICF に基づく介護過程を展開することができる「考える介護福祉士」を養成することにある。実務経験者に対し新に 600 時間養成課程を課する意義はこれらを修得することである。

実務経験者に理論的、体系的学習を課することが基本であるが、実務経験者が介護福祉士の受験資格取得時に 1800 時間課程（2 年課程）の目標に沿って学ぶ必要がある。

600 時間養成課程の内容

「人間と社会」は対人援助の核になる人間観、社会観、介護観を養うところである。基本的人権を尊重する視点から、介護における「尊厳」「自立」の職業意識持つことを学ぶ。「介護の基本」は、対象である利用者を理解し人間関係を構築しながら援助していくうえでの基礎であり土台となるところである。知識だけではなく、対人援助職としての価値や倫理が重要視されるところであり、介護を必要とする人々の人権と尊厳を尊重できる介護者の育成を目的としている。

「介護過程」は、介護を必要とする人の全人的な理解とその対象となる方の QOL の向上を目指した援助であり、根拠に基づいた援助実践であるための科学的思考過程の習得を目的としている。学習過程として「介護過程」を理論編と実践編に分けている。理論編では、介護過程の意義・目的等を理解するとともに、介護過程のベースとなっている問題解決思考

について身近なテーマにそって理解できるようにする。その上で、介護過程の構成要素とそれぞれの理解を通して介護過程の全体像が学べる内容とする。実践編では、「生活支援技術」の各単元において学んだICFに基づいたアセスメント視点や方法を具体的な事例を用いながら介護過程に展開できるようにしていくことが必要である。

「コミュニケーション技術」は、介護を必要とする対象者を理解し援助し、人間関係構築の過程でもある。援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者・利用者家族、あるいは介護職間、多職種協働におけるコミュニケーション能力を養うための学習である。

「生活支援技術」は、介護過程に基づく介護技術の実践、すなわち生活支援技術に必要な知識・技術を学ぶ。利用者の尊厳を守り自己選択と自己決定を支え、自立への援助実践を展開していくためには、対象者の全人的理解と根拠に基づいた介護技術の提供が必要である。

「こころとからだのしくみ」は、障害をもつ人の日常生活支援に際し、その人を心身両面から理解するための領域である。

介護福祉には、生命を守り、健康を維持し、生活を機能させるという三段階の目的があるが、「こころとからだのしくみ」はこのすべての段階に関わる知識を提供する。そして、生活を機能させる段階において「人間と社会」および「介護」の領域との共通基盤となるのが、ICFである。「こころとからだのしくみ」の領域にはさらに、「発達と老化の理解」「認知症の理解」「障害の理解」「こころとからだのしくみ」の4科目がある。

600 時間養成課程の展開

学習スケジュール

通信課程は、実務経験者が国家試験の受験資格を得ることが主目的である。したがって、国家試験の実施時期を想定して学習スケジュールを計画することが必要である。課程開始の時期、知識や技術の習熟度の視点、そして受講者の課程からの脱落予防等の視点にたった、実務経験者にとって教育的効果の高い方法を、1年以上の期間で組み立てなければならない。

スクーリング

面接授業は、通信教育だけでは修得が難しく、実技や演習で行うことが効果的な内容を学ぶために行われるものである。教育内容のうち、介護領域の「介護の基本」、「コミュニケーション技術」、「生活支援技術」、「介護過程」の計300時間のうち45時間分は、介護等に関する専門的技術を学習するため、教員と学生との双方向の対話による演習形式の授業、いわゆる「面接授業」(スクーリング)の方法による授業が義務付けられている。スクーリングに必要な日数は1年間で6日間である。それは集中的に行うか分散して行うかのいずれかの方法が考えられる。